

ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立八戸第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	どんな音が聞こえるかな		
	単元(題材)の目標	身の回りの様々な音を探したり聴いたりすることに興味をもち、生活の中の音に親しむ。		
学習集団と実	学部・学年・人数	小学	部	2 年 3 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元（題材）における主な実態を端的に記入する。 ・上肢の運動の障害等により、書字に時間がかかる児童がいる。 ・友達の意見に対し、自分から関わるのが少ない。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 タブレット端末、AppleTV、プロジェクター		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 Goole Classroom、Jambord		アプリマーク  
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	・書字に困難さのある児童が、自分の言葉で表現するため。 ・児童ごとに付箋を色分けすることで、児童同士の自発的な交流を促すため。		
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 タブレット端末を活用した学習活動は、 ①体育館にタブレットを持って行き、聞こえた音を Jambord の付箋機能で記入 ②教室に戻り、スクリーンで Jambord の画面を投影し、気づいたことを発表の2つで、授業後は画面を印刷し、掲示をした。 個に応じた支援として、使いやすさに応じてケースを折りたたんだ状態で使用したり、画面の角度を調整したりして使用した。また、文字を入力する際は平仮名五十音配列のスクリーンキーボードを利用した。 ①の活動場面では、見つけた音を、自分なりの擬音語で記入することができた。②の活動場面では、教師からの促しがなくても、友達の意見を見て、『『じー』は、なんの音？』と質問する姿が見られた。また、それが扇風機の音であることが分かると、「ぼくは違う聞こえ方をしたよ。」と意見を交わし、同じ音でも聞こえ方は人それぞれであると、気づきを深めることができた。			